

## 令和4年度（藤沢工科高等学校）不祥事ゼロプログラムの検証等

## ○ 課題・目標別実施結果

課 題	目 標	実施結果と目標の達成状況
○法令遵守意識の向上（公務外非行の防止、職員行動指針の周知・徹底を含む）	公務員、特に教職公務員としての行動を自覚する。	職員会議や不祥事防止会議等で、管理職より問題点を明確にした具体的な話をする事で、職員全員が自分自身の課題として不祥事防止に努める意識と教育公務員としての自覚を促すことができた。
○職場のハラスメント行為の防止	わいせつ・セクハラ・パワハラ行為を防止する。	個別の面談を実施するなど、風通しのよい職場環境づくりに努めることで、個々の職員のセクハラ、体罰等に対する意識を高め、相互に確認し合う雰囲気醸成した。
○児童・生徒に対するわいせつ・セクハラ行為の防止	生徒に対するわいせつ・セクハラ行為を防止する。	教育相談体制の充実を図り、生徒が相談しやすい環境を構築した。併せて、生徒自身にセクハラやわいせつ行為に対する感度を上げて、それを看過しないよう集会などを通して意識の啓発を図った。
○体罰、不適切な対応・指導の防止	生徒の人権を尊重し、体罰、不適切な対応・指導の発生を防止する。	研修等を通して、生徒の人権を含め、互いを尊重し合う姿勢をもつことの重要性を説くとともに、生徒の声を管理職が直接聞くなどして、信頼関係を築きながら生徒を指導することを心がけた。
○入学者選抜に係る事故防止	入学者選抜業務に係る事故不祥事の発生を未然に防止する。	入選員会コア会議を組織し、それぞれの業務について入念なシミュレーションのもと業務を遂行した。また、業務遂行に即してタイムリーに研修を行うことで職員の事故防止に対する意識を啓発することができた。
○成績処理及び進路関係書類の作成及び取扱いに係る事故防止	定期試験、成績処理、調査書等の文書作成での事故を未然に防止する。	各学期の成績処理にあたり、教務グループが教務通信を全職員に配布し、スケジュールや留意すべきポイントについて共通理解を図ったことにより、事故なく効率的に業務を進めることができた。
○個人情報等の管理、情報セキュリティ対策（パスワードの設定、誤廃棄防止）	個人情報の流失や誤廃棄を未然に防止する。	個人情報の管理、試験の答案等の誤廃棄防止についての対策を継続している。オンライン授業や一人一台端末の導入に対応するため、校内ネットワーク運用要領などの見直しを行い、研修を通して改めて個人情報管理のポイントを全体で確認した。
○交通事故防止、酒酔い・酒気帯び運転防止、交通法規の遵守	交通事故や酒酔い、酒気帯び運転を防止する。	交通安全資料や実例を活用するなどして、常に職員に対して、交通法規の遵守をはじめとした、徹底した綱紀保持を求め、飲酒等に係る不祥事の撲滅に努めた。
○業務執行体制の確保等（情報共有、相互チェック体制、業務協力体制）	不適切な業務執行を防止する。	日常の業務において、報告、連絡、相談を徹底し、適切な管理体制及びチェック体制のもと、業務を遂行することができた。 <u>しかしながら、情報共有、相互協力体制の確立という点においては、課題は残った。</u>

○会計事務等の適正執行	適正な私費徴収・執行を行う。	適切な会計業務の実施のため、常に複数確認の体制で処理を行うようにし事故防止に努めた。また、会計と事務の連携上の課題等についても一つずつ精査することで、適正な会計処理業務の遂行に努めた。
-------------	----------------	--

○ 令和4年度不祥事ゼロプログラム全体の達成状況と令和5年度に取り組むべき課題  
(学校長意見)

教育公務員としての自覚を持ち、法令順守と人権尊重を基本として不祥事防止に取り組んできた。特にセクシャルハラスメントを含むハラスメント行為の撲滅や体罰を絶対に許さないことを、校長自らが朝の打ち合わせや職員会議等で話をしたり、個別の面談等を繰り返したりしながら職員に徹底してきた。

業務体制の確保においては、報告、連絡、相談の姿勢を徹底し、事故や不祥事に至る事案が生じることはなかった。しかしながら、学年団内、グループ内、また、相互の情報共有という場面では、その迅速性や適切さという点では課題も残った。さらなる職員の意識の啓発とより風通しのよい職場の雰囲気づくりに取り組みたい。